

令和 7 年度募集 国分寺市提案型協働事業「提案書」

<p style="text-align: right;">令和 7 年 7 月 14 日</p> <p>国分寺市長 殿</p> <p>団体の所在地 東京都国分寺市内藤 1-19-2</p> <p>団 体 名 ソーシャル・イノベーション・アカデミー</p> <p>代 表 者 氏 名 馬 渡 一 浩 印</p> <p>(※)本人が手書き(署名)しない場合は、記名し押印してください。</p> <p>「申請書類等提出方法申出書」を提出している場合は、記名 で構いません。押印は不要です。</p> <p>次のとおり提案します。なお、会員名簿・担当者連絡先を除き公開を承諾します。</p>	
1 提案事業名	<p>ソーシャル・イノベーション・アカデミー事業</p> <p>(適合する、市の施策または事務事業：地域連携)</p>
2 事業実施期間	令和 8 年 4 月 1 日 から 令和 9 年 3 月 31 日まで
3 提案事業予算	1,030,000 円
4 提案事業概要 (事業目的、内容等を 400 字以内でご記入 ください。この欄の 記載内容は、ホーム ページ等で公表し ます。)	<p>(1) 地域活動の新たな担い手の育成</p> <p>地域課題の解決に積極的に挑み、新たな価値を生み出す意思と能力に富み、汗をかくことを厭わない次世代市民を育成する。</p> <p>また、既に活動を行っている市民も参加することで、新たな力と今ある力が交わり、市民活動の更なる活性化に向けた相乗効果をもたらすことを目的とする。</p> <p>月に 1～2 回、夜間アクティ・ココブンジでセッションを実施し、ソーシャル・イノベーションの基本的知識を学ぶ。さらにグループワーク形式で、市内の具体的フィールドで生きた課題の解決演習に取り組む。</p> <p>(2) 多分野や公民をつなぐ交流の場づくり</p> <p>地域一体となって地域課題解決の後継者となる次世代市民を育成するため、公民をはじめとした多様なステークホルダーと目的意識の共有を図っていくことを目的とする。</p> <p>社会的活動を担う諸団体、地元企業や大学等が、立場や活動テーマの違い等を超えて学び合い交流する場を創る。</p>
5 添付書類	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <input checked="" type="checkbox"/>企画書(2号様式) <input checked="" type="checkbox"/>収支予算書(3号様式) <input checked="" type="checkbox"/>団体概要書(4号様式) <input checked="" type="checkbox"/>定款又は規約 </div> <div> <input checked="" type="checkbox"/>会員名簿 <input checked="" type="checkbox"/>予算・決算関係書類 <input type="checkbox"/>法人市民税納税証明書 <input type="checkbox"/>その他() </div> </div>

1 提案事業名	ソーシャル・イノベーション・アカデミー事業
2 事業の目的 (解決すべき社会問題・地域課題、事業の意義や必要性について)	<p>「第2次国分寺市総合ビジョン」では、「地域連携」における現状と課題として、「地域活動の硬直化」「広範に及ぶ市民ニーズ」「複雑化・多様化する地域課題」の3点が示され、またそれらに対する取組方針として、「地域活動の活性化」「多分野における公民連携の推進」「地域のつながりの場の創出・支援」の3つが掲げられている。</p> <p>私たちの考えるソーシャル・イノベーション・アカデミー事業は、少子高齢化により縮まる社会に向けてのものである。それに起因する様々な課題解決を考え、行動する人材を増やし、結果として協働事業として遂行されることで市民満足が向上できると考えている。その前提のもと、ビジョンにある3つの取組方針を受け、「(1) 地域活動の新たな担い手の育成」と、「(2) 多分野や公民をつなぐ交流の場づくり」を通して、次世代市民を中心とした参加や協働・協創を広く展開していくきっかけとし、新たな協働事業を提案につなげ、協働事業の拡大に寄与することを最終的な目標として実現していきたい。地域課題に対しては息の長い対応が必要である。跡を継ぐ若い世代が途切れることなく育つことが不可欠であり、そのための新たなしくみをつくっていききたい。</p> <p>社会は超長寿社会、「人生100年時代」を迎えつつある。望ましい生き方や仕事のしかたにもこれまでとは異なる形が求められるようになるという。ひとつの仕事の場だけでなく、複数の「多様な活躍の場」に自ら進んで属していく「パラレル・キャリア」の生き方はその代表例である。多様な場の中には非営利の社会貢献の現場も多く、これまで以上に多くの若者たちが、活躍の場を求めて地域課題に向き合う可能性が高まるようだ。こうした構造的な変化は、地域課題に向き合う次世代市民を育てる上で大きなチャンスである。早期にこの動きを先取りし、他地域に先駆けて対応する新たなしくみをつくれれば、新しい担い手が育ち、国分寺地域の地域課題対応力は高まる。他地域との差別化を図る上でも大変有効なものになるだろう【前記の目的(1)】。</p> <p>しくみづくりにあたっては、既存の各活動主体の壁を越えて、若年世代市民全体に大きく網をかけるような形で連携し、地域が一体となって後継者を育てる形を目指したい。その準備活動のひとつとして、次世代人材予備軍の若年層と、いま社会的活動を担う諸団体および行政が、立場や活動テーマの違いなどを超えて交流し、深く知り合あって、目的意識を共有していくことが大切である。そのための新たな交流の場をつくりたい【前記の目的(2)】。</p> <p>この目的(1)と(2)の活動を継続的に進めるため、事業名に冠した「ソーシャル・イノベーション・アカデミー」を具体化し、目標とする次世代市民の育成を戦略的に進めていくための基盤としたい。</p> <p>行政や企業の現場における多様な課題解決活動、また大学での実践的教育指導や学会活動等に多くの経験と実績を持つ私たちならではの、有効な取り組みができるものと確信している。【前記の最終的な目標】。</p>

3 事業の内容 (事業の目的を達成するために何を するか)	令和8年度の事業の概要は以下の通り。 まず、前記の目的(1) (「地域活動の新たな担い手の育成」) に対応して、月に 1〜2 回のセッションを実施し、地域課題解決に向けて積極的な協働意識と解決能力を持つ人材の育成を目指す。ソーシャル・イノベーション関連の基本的な知識を学ぶとともに、グループワーク形式で、市内の具体的フィールドで生きた課題の解決演習に取り組む。 そして、前記の目的(2) (「多分野や公民をつなぐ交流の場づくり」) に対応して、社会的活動を担う諸団体や大学等が、立場や活動テーマの違い等を超えて交流し、深く知り合あうための新たな交流の場を創る。																		
4 事業計画 (事業の実施スケジュール)	令和8年度の事業計画は、現時点で以下の通り。令和8年4月から活動を開始する(以下は、現時点での案)。 ・講義は対面とオンラインによって実施する。基本、夜間の開催。途中回からの参加も単発の参加も可。 ・目的(2) に対応する新たな交流の場づくりは、毎月のセッションに並行して準備を進めていく。 ●・・・どなたでも参加可能 ■・・・セッション参加者のみ参加可能 <table><tr><td></td><td>講義</td><td>フィールドワーク</td></tr><tr><td>4</td><td>セッション参加者募集イベント(プレ講義) 「(仮) 国分寺市の見えない資源、どこに何があるかな?」の実施準備。</td><td>アカデミー講師陣による市内把握のための街歩き実施。公開イベント会場選定。</td></tr><tr><td>5</td><td>●プレ講義 「(仮) 国分寺市の見えない資源、どこに何があるかな?」を対面、オンラインの併用で実施。ポスター、パンフレット作製掲示配架。</td><td>公開イベント「(仮) 国分寺の見えない資源を体感しよう!」参加者募集開始。 「市内のまつり」関係者と講師陣、スタッフ、協力団体での意見交換会実施。</td></tr><tr><td>6</td><td>■第1回講義 セッション参加者決定。初顔合わせ。セッションの進め方についてオリエン。</td><td>■第1回フィールドワーク セッション参加者により公開イベント「(仮) 国分寺の見えない資源を体感しよう!」の事前街歩き実施。</td></tr><tr><td>7</td><td>■第2回講義 対面、オンラインで基本となる文献を読み合う。例:『ライフ・シフト 100 年時代の人生戦略』リンダ・グラットン。</td><td>●第2回フィールドワーク 公開イベント「(仮) 国分寺の見えない資源を体感しよう!」を実施。セッション参加者以外の参加も自由。フィールドを歩き、地域課題の解決に有用な素材探し。併せてどんな活躍の場を具体的に作れそうかの気づきを得る。終了後、懇親会。</td></tr><tr><td>8</td><td>■第3回講義 7 月の公開イベントで得た知識や実感をもとに、セッション参加者に、自らが関われそうな地域課題と活躍の場の「仮案」を作って発表してもらう。</td><td>■第3回フィールドワーク 更なる地域コミュニティ拡大を視野に新たな「まつり」の実施に向けた視察。</td></tr></table>		講義	フィールドワーク	4	セッション参加者募集イベント(プレ講義) 「(仮) 国分寺市の見えない資源、どこに何があるかな?」の実施準備。	アカデミー講師陣による市内把握のための街歩き実施。公開イベント会場選定。	5	● プレ講義 「(仮) 国分寺市の見えない資源、どこに何があるかな?」を対面、オンラインの併用で実施。ポスター、パンフレット作製掲示配架。	公開イベント「(仮) 国分寺の見えない資源を体感しよう!」参加者募集開始。 「市内のまつり」関係者と講師陣、スタッフ、協力団体での意見交換会実施。	6	■ 第1回講義 セッション参加者決定。初顔合わせ。セッションの進め方についてオリエン。	■ 第1回フィールドワーク セッション参加者により公開イベント「(仮) 国分寺の見えない資源を体感しよう!」の事前街歩き実施。	7	■ 第2回講義 対面、オンラインで基本となる文献を読み合う。例:『ライフ・シフト 100 年時代の人生戦略』リンダ・グラットン。	● 第2回フィールドワーク 公開イベント「(仮) 国分寺の見えない資源を体感しよう!」を実施。セッション参加者以外の参加も自由。フィールドを歩き、地域課題の解決に有用な素材探し。併せてどんな活躍の場を具体的に作れそうかの気づきを得る。終了後、懇親会。	8	■ 第3回講義 7 月の公開イベントで得た知識や実感をもとに、セッション参加者に、自らが関われそうな地域課題と活躍の場の「仮案」を作って発表してもらう。	■ 第3回フィールドワーク 更なる地域コミュニティ拡大を視野に新たな「まつり」の実施に向けた視察。
	講義	フィールドワーク																	
4	セッション参加者募集イベント(プレ講義) 「(仮) 国分寺市の見えない資源、どこに何があるかな?」の実施準備。	アカデミー講師陣による市内把握のための街歩き実施。公開イベント会場選定。																	
5	● プレ講義 「(仮) 国分寺市の見えない資源、どこに何があるかな?」を対面、オンラインの併用で実施。ポスター、パンフレット作製掲示配架。	公開イベント「(仮) 国分寺の見えない資源を体感しよう!」参加者募集開始。 「市内のまつり」関係者と講師陣、スタッフ、協力団体での意見交換会実施。																	
6	■ 第1回講義 セッション参加者決定。初顔合わせ。セッションの進め方についてオリエン。	■ 第1回フィールドワーク セッション参加者により公開イベント「(仮) 国分寺の見えない資源を体感しよう!」の事前街歩き実施。																	
7	■ 第2回講義 対面、オンラインで基本となる文献を読み合う。例:『ライフ・シフト 100 年時代の人生戦略』リンダ・グラットン。	● 第2回フィールドワーク 公開イベント「(仮) 国分寺の見えない資源を体感しよう!」を実施。セッション参加者以外の参加も自由。フィールドを歩き、地域課題の解決に有用な素材探し。併せてどんな活躍の場を具体的に作れそうかの気づきを得る。終了後、懇親会。																	
8	■ 第3回講義 7 月の公開イベントで得た知識や実感をもとに、セッション参加者に、自らが関われそうな地域課題と活躍の場の「仮案」を作って発表してもらう。	■ 第3回フィールドワーク 更なる地域コミュニティ拡大を視野に新たな「まつり」の実施に向けた視察。																	

	9	■第4回講義 セッション参加者と運営メンバー協働で、10月の日本ソーシャル・イノベーション学会の発表内容のまとめ。これまでの活動と得られた知見の整理、今後の進め方の案の検討、等。	希望者による「市内のまつり」参加。
	10	■第5回講義 地域コミュニティ拡大に取り組んだ新たな「まつり」の検証。	■特別フィールドワーク 「日本ソーシャル・イノベーション学会」参加。これまでの活動成果を中間発表。学会参加者とのオープンなディスカッション実施。
	11	■第6回講義 8月につくった「仮案」に沿った新たな交流の場となるオリジナルなまつりの開発（「6事業の対象」で後述する「B.これまで社会的活動の経験がなく、新たに関心を持つ国分寺市民」を主な対象とする）。	■第4回フィールドワーク オリジナルのまつりを現場で試験的に実施。
	12	■第7回講義 大学や企業等との連携によるシンポジウム等、自由に考えてみる。	現場での活動を継続。「新たな交流の場」の準備。
	1	■第8回講義 実施の中で調整	■第5回フィールドワーク 「新たな交流の場」の実施。
	2	■第9回講義 令和8年度の「全体まとめ」。 セッション参加者と運営メンバー全員で、1年間の活動の総括と次年度以降に向けた活動方針づくり。発表。打ち上げ会。	
5 目標値 (事業期間で達成する目標)	以下の数値を目標とする。 ひとつは、いくつかの実数（アウトプット指標）。 1 セッションの参加者数。20名以上。 2 イベントの参加者数。50名以上。 3 交流の場の参加者数。100名以上。 今ひとつは、参加者アンケートによる、各種認知度および有効性の評価の数値（アウトカム指標）。 1 セッションの有効性評価。 2 交流の場となりうる施設等の認知度と有効性評価。 3 つながりの育成度評価。参加者のつながりがどれだけ増えたか。		
6 事業の対象 (地域、具体的対象者、対象総人数)	以下の条件のいずれかに該当する国分寺市民を事業の対象とする（国分寺市民は、市の区域内に住む者、市内で働く者、学ぶ者若しくは公益的な活動を行う個人）。 A. これまで社会的活動に従事してきた国分寺市民。		

等)	<ul style="list-style-type: none"> ●これまでの自らの活動をアカデミックな視点で振り返り、知見を整理したい個人。 <p>B. 社会的活動の経験がないが、新たに関心を持ちつつある国分寺市民等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「パラレル・キャリア」の「多様な活躍の場」をつくりたい個人。 ●向学意欲の高い学生（近隣大学等から学生を募集）。 ●従業員の就業意識教育に活用したい企業、等。
7 事業の実施場所	アクティ・ココブンジ（セッション等のメインの教室として）、および神社等をはじめとする国分寺市内の様々な現場（フィールド活動や交流の場として）を組み合わせる。
8 役割分担（具体的に）	<p><提案団体が担う役割></p> <p>ポスター、パンフレットの作成、参加者募集、講師派遣、セッション、イベント、交流の場等の事業の運営、実施、等を関係職員のみなさんと一緒に定例会議を通して構築し、国分寺・NPO 連絡会のみなさんと連携しながら実施していく。</p> <p><市が担う役割></p> <p>本事業への職員参加の呼びかけ、参加者募集サポート、イベント等の事業の運営サポート、広報（ポスター掲示、パンフレット配架、市報、SNS等）</p>
9 目標が達成された状態	<p>短期的には上記「5 目標値」が実現された状態である。中長期的には以下のような状態を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 異なる地域課題テーマで活動する個人や団体が、テーマの壁を越えて自由に交流するネットワークが形成・強化される。 2 地域課題に主体的に対応しようとする市民の裾野が広がり、人数が増える。自らの「パラレル・キャリア」のテーマのひとつとして地域課題を意識することで、これまで地域活動に縁のなかった市民の間に地域活動参加への機運が膨らみ、後継者が育つ新たな土壌が育つ。 3 市民の間に、「パラレル・キャリア」での地域活動参加の動きが定着し、新たな担い手たちが育つことで、他地域に勝る社会活動基盤が形成される。その事実がシンボルとなって発信され、国分寺地域内外で、「パラレル・キャリアといえば国分寺」という地域イメージが確立していけば素晴らしい（食べ物で No1 を目指している自治体は多いですが、国分寺はしくみや活動を通じて目指します）。
10 市と協働する意義及び必要性、協働による相乗効果	地域課題に向き合う積極的な協働意識と解決能力を持った人材は、これからの時代の地域の重要な資源である。そうした人的資源を育む活動に対し、市と市民が目的意識や課題意識をしっかりと共有しつつ、関係市職員、アカデミー講師陣、国分寺・NPO 連絡会と受講者が共に汗をかきながら取り組む場を持つこと自体が、地域の中長期的な発展や豊かさを実現するためのかけがえのないインフラとなるはずである。
11 事業実施後の展開（成果の活用方法又は、提案団体の自主的な活動展開等）	次年度以降、修正を加えながら継続して実施していく。次年度には修了生の中から新たな講師としてデビューさせたい。4 年目以降は独立した会計で実施できるよう、順次経営基盤を整えていく。

令和7年度募集 提案型協働事業 収支予算書

(収入の部)

大項目	中項目		中項目計	大項目計
委託費	国分寺市協働事業補助金	700,000 円 × 1 回 = 700,000 円	700,000 円	700,000 円
参加費	セッション参加費(一人年間) イベント参加費(一人当たり)	10,000 円 × 20 人 = 200,000 円 2000 円 × 65 人 = 130,000 円	330,000 円	330,000 円
合 計				1,030,000 円

(支出の部)

大項目	中項目		中項目計	大項目計
人件費	内部講師謝礼 スタッフ手当 資料作成手当 定例会議	10,500 円 × 1.0 H × 1 人 × 15 回 = 157,500 円 1,370 円 × 3.0 H × 1 人 × 15 回 = 61,650 円 1,590 円 × 3.0 H × 1 人 × 15 回 = 71,550 円 1,590 円 × 2.0 H × 2 人 × 10 回 = 63,600 円	354,300 円	354,300 円
委託費	アカデミーYouTube版作成 キャスト 撮影スタッフ 制作スタッフ スタジオ・機材レンタル	1,370 円 × 2 H × 2 人 × 14 回 = 76,720 円 1,370 円 × 2 H × 2 人 × 14 回 = 76,720 円 1,370 円 × 2 H × 2 人 × 14 回 = 76,720 円 40,000 円 × 1 式 = 40,000 円 (税込)	270,160 円	270,160 円
報償費	フィールドワーク協力者謝礼 フィールドワークNPO連絡会謝礼	10,000 円 × 3 回 = 30,000 円 10,000 円 × 4 回 = 40,000 円	70,000 円	70,000 円
消耗品費	用紙、インク等一式	12,741 円 × 1 式 × 1.1 = 14,015 円	14,015 円	14,015 円
通信運搬費	通信費	10,000 円 × 1 式 × 1.1 = 11,000 円	11,000 円	11,000 円
保険料	1DAYレジャー保険 個人情報漏洩保険	500 円 × 130 人 × 1.1 = 71,500 円 50,000 円 × 1 件 × 1.1 = 55,000 円	126,500 円	126,500 円
印刷製本費	ポスター・パンフレット作製費 (ポスター × 200枚、パンフレット × 500部)	100,000 円 × 1 回 = 100,000 円 (税込)	100,000 円	100,000 円
直接経費計				945,975 円
諸経費		直接経費945,975円 × 10% = 94,597円以下の84,025円を計上 (報告書作成労務人件費、交通費、貸金処理事務費)		84,025 円
消費税(消費税がかかる場合)		0 円		
合 計		1,030,000 円		

団 体 概 要 書

団体の名称	ソーシャル・イノベーション・アカデミー		
	ソーシャル・イノベーション・アカデミー		
所在地	〒 185-0033 東京都国分寺市内藤 1-19-2		
設立年月日	2017 年 9 月 30 日		
会員の状況	正会員数 11 人・ (内国分寺市民 7 人)	年会費	3000 円
	賛助会員数 0 団体会員 0	年会費	
活動目的	<p>◆「地域をどうデザインするのか」。私たちは、ソーシャル・イノベーションを目指す人々が集い、学び、行動するためのアカデミーです。</p> <p>◆イノベーションの機会は Public と Private の境界線上にあります。様々な「イシュー」が境界線上につながりを生み出せば、地域/コミュニティの未来を描く新たな解を見出すことができます。</p> <p>◆私たちは、地域課題解決のため、地域自らが取り組むイシューを持つ「きっかけ」を提供します。これからの少子高齢化社会を地域の皆さんとともにデザインしていきます。</p>		
活動内容・活動実績 (既に協働による委託事業等の実績がある場合には、委託事業名、委託契約先名、委託時期を記入して下さい。)	<p>◆本事業は、一般社団法人 DSIA から継承したものです。一般社団法人 DSIA は、2009 年、大学、財団関係者、そして起業家の仲間たちで立ち上げられました。2011 年からは「災害支援」を重視した活動を展開し、グローバルギビング（米国ワシントンに本部を置く最大規模のクラウドファンディング）を通じて海外の資産を東北に届けることができました。このことでグローバルギビングから「Vetted Organization（信頼できる団体）」というラベルを頂戴しました。</p> <p>◆その後の多くの活動を通じて、営利や非営利セクターに関わらず、現場で挑戦する人々は共通の「目」を持っていることに気がつきました。いろいろな知恵を共通の現場の目で見集めてくると、社会課題解決につながる糸口がつかめるに違いない。ならば机上の学びだけでなく、現場の目をどう活かすかを考え、行動するためのアカデミーがあつていいと考えたのです。</p> <p>◆主な実績として、ソーシャル・イノベーション・アカデミーキックオフトーク、アカデミー開校、フィールド学習、奥州合宿、奄美合宿実施、ほか。</p>		
担当者連絡先			
担当者連絡先			

ソーシャル・イノベーション・アカデミー運営規約

第1条(会の目的)

営利や非営利セクターに関わらず、いろいろな知恵を集めてくると社会課題解決につながる糸口がつかめる。起業においても、アサインされた事業の中でも、それは同様である。この会は、ソーシャル・イノベーション創出の機会を提供する人材を育成するための研究者団体である。アカデミーの準備・運営の業務を円滑に進め、参加者の満足度を高め、併せて参画研究者相互の情報共有と親睦を深めるための活動を行うことを目的とする。

第2条(名称)

この会の名称を以下のとおりとする。

ソーシャル・イノベーション・アカデミー

第3条(事務局所在地)

この会の事務局を以下に置く。

〒185-0033 東京都国分寺市内藤1-19-2

第4条(会員)

ソーシャル・イノベーションを研究することを参加の条件とする。

第5条(役員)

この会に以下の役員を置く。

代表	1名
副代表	1名
事務局長	1名
会計	1名
監査	1名

第6条(役員の任期)

役員の任期は2024(令和6)年4月1日から2026(令和8)年3月31日までとする。

第7条(代表)

代表はアカデミーを代表し、円滑な運営に努める。副代表は代表を補佐し、代表が欠員のときは代表の職務を遂行する。

第8条(運営)

おおむね年12回の研究会を開催する。重要事項については、会員による運営会議を行い円滑な業務遂行に努めるものとする。運営会議の議事は、出席者の過半数の同意をもって決定する。

第9条(関係団体)

本アカデミーは2009(平成21)年、「社会課題を共に考え行動する人々と協創する」という理念にて設立された一般社団法人 DSIA が、これまで行なってきたソーシャル・イノベーション・アカデミーを引き継ぐことから、同会との連携を密に事業を展開するものとする。

第10条(会費)

会費を年間3,000円とし、原則これを財源に運営費用として充てるものとする。

第11条(規約改正)

この規約は、会員の過半数の同意をもって改正することができる。

附則

1. 会の役員は次の会員とする。

代表	馬 渡 一 浩	元文京学院大学教授
副代表	服 部 篤 子	大和大学教授
事務局長	内 藤 達 也	明治大学大学院講師
会計	高 橋 麻 美	日立中央研究所研究員
監査	樽 見 浩 紀	北海学園大学名誉教授

この規約は2024(令和6)年4月1日から適用する。

ソーシャル・イノベーション・アカデミー令和6年度決算

令和7年5月

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費収入	27,000	研究会費	9,000
補助金	50,000	出張費	30,000
事業収入	0	学会派遣費	25,000
懇親会会費収入	0	研修参加費	0
寄付金	0	役員会開催費	4,500
受取利息収入	1	事務局費	0
雑収入	0	通信費	0
		消耗品費	11,000
		雑費	0
計	77,001	計	79,500
前年度繰越金	46,324	次期繰越金	43,825
合 計	123,325	合 計	123,325

ソーシャル・イノベーション・アカデミー令和7年度予算

令和7年5月

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費収入	33,000	研究会費	9,000
補助金	50,000	出張費	0
事業収入	0	学会派遣費	55,000
懇親会会費収入	0	研修参加費	0
寄付金	0	役員会開催費	4,500
受取利息収入	0	事務局費	0
雑収入	0	通信費	0
		消耗品費	11,000
		雑費	0
計	83,000	計	79,500
前年度繰越金	43,825	次期繰越金	47,325
合 計	126,825	合 計	126,825